



# 根雨小6年生の『組み木絵』が、丹波年輪の里木工クラフトコンクールで入賞

▼丹波の森ウッドクラフト展（兵庫県丹波市） 実行委員長賞を受賞

受賞を喜ぶ6年生と木のおもちゃグループ会員ら



《審査員講評》 提供 兵庫県立丹波年輪の里（同実行委員会事務局）

大勢から寄せられた組み木の作品です。それぞれに楽しいデザインとやさしい色彩感覚など、優劣がつけがたい作品であり、一括しての受賞です。楽しんで作品づくりに取り組まれた様子が伝わってきます。（日本玩具博物館 館長 井上 重義）

兵庫県丹波市で、10月28日から11月11日にかけて開かれた、第25回丹波の森ウッドクラフト展（同実行委員会主催）において、全国から220点の応募があった高校生以下の「ジュニアの部」で、根雨小学校6年生の『動物親子の組み木絵』が実行委員長賞を受賞しました。

これは、木工クラフトが盛んな兵庫県丹波市で、優れた木工クラフト作品の募集と展示、文化の向上を目的としたコンクールで、根雨小学校が応募するのは3回目。

きっかけは、毎年、6年生を対象に行っている「組み木の出前教室」の講師、組み木デザイナーの小黒三郎さん（岡山県倉敷市）が応募を勧めたこと。「組み木の出前教室」は木のおもちゃづくりグループ（金田美紀代表）が支援し、今年で7年目となります。小黒さんが優しく指導さ

れ、児童も楽しみにしています。

「子どもたちは一枚の板の前に、どんなデザインにしようか悩んでいました。デザインを考え、電動糸のこに向かい丁寧に切る、そして色を付けて完成となります。5時間、2日がかりの大変な作業です。子どもたちも頑張りましたが、2日間、木のおもちゃづくりに取り組む時間をいただいた学校に感謝しています。このような賞が受賞でき、出前教室を続けてきて良かった」と、金田さんは笑顔を見せます。

6年生担任の砂流誠吾教師は「200点を超える作品の中で入賞したことは素晴らしいこと。おめでとう」と、子どもたちに声をかけました。自分の作品を手にした子どもたちは、「早く家に持って帰りたい」とうれしそうな表情を見せました。





緊張の指揮者体験。指揮に合わせて音楽隊も演奏



体育館に響く鳥取県警察音楽隊の演奏

体育館いっぱい、迫力ある音が響きわたる  
根雨小学校で『とつとりの芸術宅配便』が開かれる

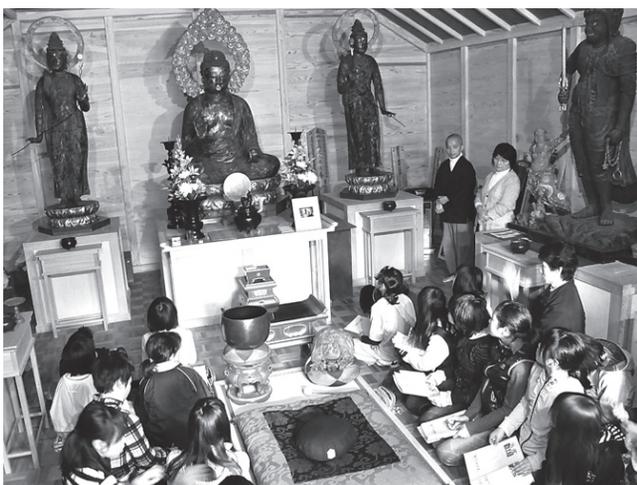
11月20日、根雨小学校体育館で『とつとりの芸術宅配便』が開かれ、鳥取県警察音楽隊が22人が8曲を演奏しました。

これは、(財)鳥取県文化振興財団と県教育委員会が、次代を担う青少年に、心に響く文化芸術の感動と自分の思いを表現する素晴らしさを広く体験してほしいと企画しているものです。

当日は児童のほか、保護者や地域の人も訪れ、迫力ある演奏に聞き入りました。まるでコンサートホールにいるようなほど素晴らしい演奏会で、おなじみの曲が流れると児童は手拍子をし、ノリノリに。

会場では、児童の代表が指揮者に挑戦し、緊張しながらタクトを振ったほか、楽器を触らせてもらいました。

また、根雨小学校金管バンドも音楽隊と共演。演奏の仕方などを習うなど交流を深めました。



長楽寺では、仏像の名前や歴史などを聞く



鏡山城址から城下町黒坂の説明を受ける

ふるさと日野町のことをもつと知ろう  
町内の小学6年生が、町の歴史・文化を学ぶ

自然豊かで、昔を伝える貴重な文化財や史跡が多く残る日野町について学ぼうと、11月22日、町内の小学6年生を対象とした『ふるさと教室』が開かれました。

毎年、開かれている教室で、教科書で学ぶ歴史と同じ時代に合わせて、町内で起こった出来事を学ぶことで、より歴史を身近に感じることができるよう企画されています。

今回は、黒坂で因幡二十士や鏡山城址などを、下榎の長楽寺では国の重要文化財となっている仏像を見学したほか、根雨では、生田長江や木山義喬を学ぶ班、根雨宿まち歩きをする班、オシドリを学ぶ班の3班に分かれて学習しました。

児童は事前に調べて参加しており、それぞれの場所で説明した講師に質問したり、聞いたことを一生懸命書き取るなど、積極的に学習する姿が見られました。